

# 日曜日の公園で (3年)

## 板書の工夫

「相互理解」の教材なので、登場人物の考えの違いを明らかにするために、あらかじめ、登場人物の名前カードや、対立の場面の挿絵などを準備しておくとうい。

「振り返り」のアイコン。

教材名の提示。

3

4

2

1

何の発問に対するまとめなのかがわかるよう、言葉で明示したり、囲んで区別したりする。

登場人物が対立していることが視覚的にわかるよう、チョークの色や囲みの形を変えたり、アイコンを書いたりして工夫する。

「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号 (アイコン) として提示できるものを用意するとよい。

## 板書の流れ

- 1 「めあて」は、初めに提示する。教科書のてびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で、めあての中の言葉を活用し、「自分と違う意見って、今までにどんなのがあった？」と、経験を問う投げかけをして、今の自分を見つめさせる。【3～4分】
- 2 教科書を範読して、物語の展開を確認する。【10分】  
ゲームを持っていない「よしき」、走って遊びたいと言いだした「たく」、まだゲームで遊びたい「ぼく」という、それぞれの立場を押さえ、「たく」と「ぼく」の対立が生じたことを確認する。
- 3 ②で確認した展開をもとに、教師が「ぼく」、子どもが「たく」になって、役割演技をする。子どもには身近な場面なので、自分事として考えることができる。それぞれの役を演じ、話すことで、そのときの「ぼく」と「たく」の思いを想像させる。どちらの立場もよくわかるという子どもたちに、自分と違う意見も大切にするために大事な心とは何か、考えさせるようにする。【20分】
- 4 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を再確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。ワークシートに記入する時間を子どもたちと相談し（だいたい7～8分）、机間指導をしながら、意図的指名をする子を決めておく。交流の中で出た子どもたちの発言は、その思いをゆがめないように、キーワードで板書する。交流の時間は必ず確保し、これからの自分の生き方につながるような考えが深められるようにしたい。【12分】